

平成26年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No.3）

平成26年6月24日
鳥取県病害虫防除所

置き苗巡回調査を行った結果、いもち病の発生が確認されました。一部の菌はストロビルリン系薬剤耐性菌（以下耐性菌）であることが確認されました。なお、本年度のプラスタムによる葉いもちの感染好適条件の出現は、過去10年で最も早い6月5日に確認されています（指導情報 イネ・いもち病（No.2） 平成26年6月11日付）。これらのことから今後の発生状況に注意が必要です。本田初期のいもち病防除に対する注意事項について以下に示しますので、業務の参考としてください。

1 置き苗巡回調査の結果

6月13～19日に行った調査の結果、補植用置き苗の放置ほ場率は14.3%（調査ほ場数 5,693ほ場）であった。また、調査ほ場全体に対して、置き苗でいもち病の発病が認められたほ場の割合は0.25%であった。また、一部の本田でいもち病の発生が確認されているが、発病した置き苗からの感染によるものであり、現時点では広域発生には至っていない。

2 耐性菌検定（遺伝子検定）の結果

いもち病発病苗および本田発病株からサンプルを採集して検定をおこなった結果、一部のサンプルは耐性菌であることが確認された。

3 イネいもち病発生予測システム（プラスタム）の判定結果等

（1）プラスタムによる葉いもちの感染好適条件または準感染好適条件は、6月12～22日にかけて散発的に出現した（表1）。

（2）6月19日発表の気象1か月予報によると、向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率とともに40%と予想され、本病の発生に助長的である。

* プラスタムについて

プラスタムとは、アメダスの気象データを用いて、葉いもちの感染に好適な条件であったかどうかを広域的に判定するシステムである。いもち病は感染後、発病するまで約1週間かかるため、感染好適日が広域に出現してから、約1週間後に広域に新しい病斑が確認できる可能性がある。

表1 プラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	岩井	青谷	智頭	倉吉	米子	下市	境	茶屋
6/10	-	-	-	-	-	-	-	-	○
6/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/12	●	-	-	●	-	-	●	-	○
6/13	-	-	-	○	-	-	-	-	-
6/14	○	○	-	○	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/18	-	-	-	-	-	-	○	-	○
6/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/20	-	-	-	-	-	-	-	-	○
6/21	-	-	-	○	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	○	-	-	●	-	○

注) ●感染好適日、○準感染好適日

4 防除上注意すべき事項

（1）置き苗は、本田へのいもち病の伝染源となるので、早急に処分する。

（2）育苗箱施用剤を使用しても十分な効果が得られない場合があるので、ほ場の見回りなどを行い早期発見に努める。

（3）本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、病害虫防除指針などを参考にして治療効果を有する粉剤、水和剤等を散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。

（4）本田施用粒剤（オリゼメート粒剤等）を使用する場合は予防散布が基本であり、発生後では十分な効果が得られない。

（5）防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。